

午前11時10分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、8番柴山恭子議員の質問を許可します。8番柴山恭子議員。

（8番柴山恭子君登壇）

○8番（柴山恭子君） 皆様、こんにちは。柴山でございます。先日から行われました朝倉市議会議会報告会には、多くの皆様に参加いただきましたこと、意見をたくさん頂戴いたしましたことを心からお礼申し上げます。報告会での市民の皆さんの声を執行部へ届けるべく、本日の一般質問をいたします。

まず、立石から寄せられました4万5,000人利用者のあるコミュニティをどうすればよいのかというのが1点。2点目は、馬田の方から寄せられた健康寿命どう延ばす、対策はというのが2点目。3点目は、甘木の方から寄せられた地方公務員は、国家公務員より給与が高いが、議会チェックはどうなっている。この3点について質問させていただきます。

報告会でのアンケート回収数は136件、参加者177名でしたので、約80%弱となり、100件以上の意見が書かれてありました。例えば、「議会として未来像をどうしていくのか」「行政、市長の考えに協力、反対だけでよいか」「議会として未来像をはっきりと出してほしい」「健康づくりは一時的な運動は効果が少ないので、スポーツや運動を日常的に続けられる環境づくりが大切」「日常生活の中では、聞きなれない言葉が多くわかりにくかった」「次回の報告会に希望することは、年1回ではなくふやしてほしい」「委員長報告だけではなく、自由に各議員の声を聞きたかった」「意見交換時間はもっと長くしてほしい」など、前向きで積極的な意見が多く、実行委員としてやれてよかったと思いました。ただ、女性の参加や若い方の参加が少なかったのは残念であり、次回に向けての検討課題であります。

では、これより質問席にて先ほど申しました3点について質問をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（8番柴山恭子君降壇）

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） まず、立石より質問のあった4万5,000人利用、どうすればよいのかということです。コミュニティの活性化、協働のまちづくり、協働とは、ともに働く、誰と誰がどうやってともに働くのかをお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 協働のことですが、まず、協働というのは、地域住民の方と行政と一緒にあって目指す姿が一緒だということで、きれいごとであるかもしれませんが、地域住民と行政がそれぞれの役割を果たしながら、対等な立場でパートナーシップで知恵を出し合って力を合わせていく、取り組んでいくということだと思っております。

○議長（手嶋源五君） 8 番柴山恭子議員。

○8 番（柴山恭子君） すばらしいです。本当にそうであれば、まあすばらしいコミュニティができるだろうと思われます。

では次、総合計画には、地域間における交流、連携を活発にするため、地域行事やイベントなどの検討、コミュニティ活動を支援、人材の育成や地域間の交流を促進することで、地域間の一体的取り組みの強化が必要とあります。イベントの検討、コミュニティ活動の支援は、誰がどのようにされるのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） コミュニティの関係については、総務部にコミュニティ推進室がございますので、そちらで総括はしたいと思いますが、実質的に行っていただきたいと思っておりますのは、コミュニティ振興会長を中心とされましたコミュニティ振興会だと思っております。その中に、そことの連携が一番大事だと思っております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 8 番柴山恭子議員。

○8 番（柴山恭子君） コミュニティは、もちろん一生懸命やるわけですよ。その一生懸命に向けて、どう支援してくださるかちゅうのが質問です。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 支援の仕方ということであると思えます。

なかなか地域の方に対しては、今、コミュニティ推進室 5 名おりますけど、3 地区を 1 人が受け持って指導していると思っております。なかなか個人間の、個人の考え方もあるかもしれませんが、具体的に指導の仕方についてはコミュニティ推進室長より回答させていただきますと思っております。

○議長（手嶋源五君） 8 番柴山恭子議員。

○8 番（柴山恭子君） そう当たり前のことです。私は、福田公民館とか、福岡地区での文化祭とか、市民まつりなどの多くのイベントに参加いたします。祭りが大好き人間なんです。その中で、コミュニティ活動の支援についてお尋ねしますが、立石では多くのイベントをやっております。これはもう総務部長も御存じのとおりですが、それでは、立石で行われます夏まつりを御存じでしょうか。誰でもいい。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 私も立石に住んでおりますので、夏まつりについては知っております。

○議長（手嶋源五君） 8 番柴山恭子議員。

○8 番（柴山恭子君） 私は、夏まつりについて知っておりますかちは聞いたけれど、知っちゃうことは当たり前で、夏まつりがどんなふうに行われよるのか、コミュニティ推進室が支援に向けて動いているのなら、どんな夏まつりのイベントが行われているのかを知

ってありますかというお尋ねをしたんです。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 正直言いまして参加しておりませんので、あったということ
はわかっております。ただ、内容については行っていませんので、申しわけありません。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） とても残念ですが、じゃコミュニティはどんなふうに立石の夏まつりを御存じでしょうか。あ、ごめんなさい。推進室は。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 私のほうも申しわけありませんが、直接夏まつりには参加させていただいておりませんが、お話を伺いさせていただいたところによりますと、立石公民館の前の広場を使っただいて、大きな盆踊りとか含めた夏まつりをそこで、地域の方が集まって、そして、やってあるというのが現状だというふうにお伺いしております。また、地域の方に楽しんでいただくために、花火を上げたり、いろんな工夫を凝らしながら、そこで、地域独特の祭りをやられてあるんじゃないかなというふうに感じさせていただいておるところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 市長はよくお見えですので、よく御存じのことと思います。ただし、立石も以前は、夏まつりを盆踊りと言っておりました。参加者がだんだん減ってしまい、やめようかという意見も出るほどでございました。しかし、何とかしなければと考え、子どもを巻き込む、すなわち子どもが親を引っ張ってくるという形をとりました。屋台や夜店、カブトムシ、いろいろな子ども向けの取り組みをし、少しずつ参加者をふやしていくことに成功し、どこのブースにもことしは子どもたちの歓声と行列ができました。

また、親も子もともに楽しめるイベントをと、花火を上げることにしたのです。会場いっぱい住民の皆様が集まってくれました。子どもたちの踊りのための太鼓もとても上手でした。中学生、高校生の参加をと思い、ゆかた着つけも始めました。何々さんの孫ばい。大きくなって、きれいになったな、そんな言葉が飛び交うような祭りであつたらいいと思い、この立石での夏まつりをどういうふうに思われますでしょうか。

立石の夏まつりは、公園の前じゃなくって、公園のずっと前、広場でやっております。そうでないと花火が上げられませんので。

さて、この私たちの取り組み、立石の夏まつり、どうお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） お話をお伺いするところによりますと、先ほど議員おっしゃいましたように、さまざまな工夫をしたり、子どもさん方が喜ぶ、そして、それに親の方がついてくる。また、じいちゃん、ばあちゃんもついてくるような、地域一帯の祭りとしてしっかり工夫をいただいているということで、非常にすばらしい取り組みと

いうか、地域として頑張った取り組みをされてあるなということを感じさせていただいております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） ありがとうございます。嫌みのようなのですが、では、体育祭は御存じでしょうか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 申しわけございません。直接参加をしておりますので、中身の具体的なことについては、察知をしております。申しわけありませんが、そういった状況です。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 立石のことだから、どんな取り組みがされているだろうと思われませんか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 夏まつりの様子をお伺いした中では、恐らくいろんな工夫をされて、そして、参加された方が楽しめるような、楽しんで参加できるような工夫をされているのではないかな。また、当然、そういった工夫をしていただきたいというふうに思っておるところです。以上です。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 住民がいかに頑張っているかを十分理解されましたでしょうか。ただし、残念ながら、ことしは1地域が参加を取りやめました。私たちにとって体育祭は、親も子も孫も参加していただきたいのですが、子どもにはパン食い競走、各種団体は仮装行列などのパレード、地域間の応援合戦、誰もが参加でき、楽しめる競争内容を検討しておりますが、綱引きでも骨折などのけが人が出ましたし、後ろ向きに走ってしまい、転んで頭を打ち、脳しんとうを起こしてしまったということもありました。

体育祭は、とても難しい行事です。日ごろの運動が必要であり、コミュニティが積極的に取り組むべき事業だと思われます。

どこか体育祭をちゃんとできてるような地区がありますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 体育祭につきまして、それぞれの地域で取り組んでいただいておりますところもあるし、実際やめられたところもあると思います。先ほどおっしゃったように、けがの心配とか、あるいは動員といいますか、人集めの問題でいろいろ苦勞をいただいているということは承知をさせていただいております。

地域によっては、そういった厳しい状況の中でも続けていこうということでやってあるということと、そろそろ内容を少し検討しようかと。具体的に言えば、負担の軽いような参加の仕方の体育祭と。そういったところもあるかと思いますが、この場でどこがすば

らしいですよということは、ちょっと控えさせていただきたいと思います。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） それでは、何校区ぐらいで体育祭が行われておりますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 申しわけありません。正確じゃないかと思いますが、8カ所ぐらい前後という言い方はおかしいでしょう。10カ所以内ぐらいかなというふうに思っております。ことしやれなかったところも実際ありますけどね。実際10カ所ぐらいはやられてあるのかなと思っています。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 次いきますよ。では、6泊7日の立石中学合宿は知っておりますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 先日、行われたことは存じ上げております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） これもとても大変な事業で、ひまわり会やPTA、地域の方へのもらい湯、ボランティアの皆様の協力により子どもたちはいろいろな体験ができて、とても楽しかったことと思われま。

ほかにも小学生とともに登る大平山登山、年4回行われる大がかりな大平山の草刈り、月2回の大平山トイレ清掃、民生委員による簡易トイレ清掃、私たち住民は、多くの行事に参加し、ともに汗を流し、喜び、楽しみ、連帯感を養っております。もっと多くの住民の皆様に参加していただき、地域の活性化を図りたいと思っております。

地域行事やイベントなど、積極的にすることで、それぞれの地域の地域性が見えてくると考えますが、それぞれの地域性をどのように考えられているのかをお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 特に、立石地区の大平山の関連については、ちょっと個人的なことではございますけど、私は合併後に生涯学習課というところに来まして、そのときに申しわけないんですけど、初めて大平山の存在、あるいは立石の方が大平山を愛してあるということを存じ上げたところがあります。

スポーツ行事関係で大平山登山をした折にも、日ごろから立石の方が大平山については、管理をきちんとされてある。言いかえれば、地域にとって愛すべき場所なんだなというのを感じさせていただいております。これも後でわかったことなんですけど、クリスマス時期には、ツリーを有志で、ツリーの電飾を飾られてあって、みんなで楽しんでいただいております。そういった一連の動きの中で、やっぱり愛する取り組みをしっかりと地域でやられてあるなということを感じさせていただいておりますし、学社連携の中でも大平山に関

する取り組みもやられてあったというふうな記憶をさせていただいております。立石のことを具体的に申し上げますと、やっぱりそういった一つ大きな自分のところの地域性を大事にしながら取り組みをされてあるんじゃないかなと思いますし、そういった取り組みは、恐らくほかの地域でもいろんな愛すべき郷土を大事にしながら、コミュニティづくりをしっかり頑張っているんじゃないかなというふうに感じておるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 立石は、今、人口1万389人、3,696世帯、高齢化率18.3%、30代が最も多く15%、子育て世代20歳から40歳は39.4%、4,094人となり、若い世代の新築中の家も多く、人口もふえております。

基本計画には、多様化、複雑化する市民ニーズに対応するため、互いの特性を認め合った上で、連携、協力を行いながら、活動の活発化を目指すと思いますが、それでは、これからの立石の活性化に向け、どう取り組むべきと考えられているのか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 恐らくという言い方失礼ですけど、公民館として今まで培ってきた中でも、しっかりそういった世代が交流するような取り組みなり、連携なり、当然していただいておりますのではないかなと思いますけど、やっぱり公民館なり、あるいは今までの組織のあり方でしたら、なかなかプラスアルファの人が集まるといいですか、いろんな方が集まるという形にはなり得なかった部分もあろうかな。そういうことで、市としてもコミュニティづくりということで推進をさせていただいておりますけど、コミュニティという考え方をひとつのきっかけにさせていただいて、今、具体的にいろんな取り組みをしていただいているのではないかなと思いますが、そういった中で、いろんな世代あるいはいろんな人、特に、先ほども議員申されましたように、立石の方は新興住宅というか、新しい方がたくさん入り込まれるということで、ぜひコミュニティづくりの中にも、そういった新しい方がコミュニティーに入り込めるような、仕組みづくり、仕掛けづくり、きっかけづくり、そういったことを進めていただいて、ある意味、私達も時々申し上げておるんですけど、よそから来た人から新たにアドバイスをいただきながら、新たな地域づくりをそこで考えていただく。そういった仕組みづくりがしていただければありがたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 私は、子育て世代の増加に伴い、若いお母さんが子どもとともに集まり、相談できる子育て広場の充実ができればと思っております。今は、春と秋は遠足に出かけ、お母さんと一緒におやつを食べます。お母さん方に日本の季節の行事を知ってもらい楽しんでいただきます。離乳食や乳幼児食の講座、時には、アパートにも多く若いお母さんが住んであります。また、同居のお母さんもいらっしゃいますが、子育ての悩み

を涙ながらに訴えられるそうです。

夏は、ビニールプールでも置いてやりたい。公民館の近くに公園があれば、楽しい外遊びもできる。フリースのようなキッズルーム、夢のようにすばらしい。ボランティアの皆様の声を聞くにつけ、何とかしなければと思いは募るのです。

私は、皆さんに肌で感じてほしい。みんなの立石だけではなく、それぞれの地域のありようを肌で感じて、そして、活動してほしいのです。

協働というのは、そういうことではないでしょうか。ともに働く、相手を知らなければ、地域を知らなければ、共同で働くということはできないはずです。ここをどう思っておりますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 今、議員がおっしゃったように、地域を知ること、非常に大事だと思っております。今までの過程の中で、大変申しわけないんですが、やっぱりどうしても組織運営とか、あるいは予算の使い方とか、そういった部分でしっかりサポートさせていただいたり、組織づくりのあり方なり、いろんなことを職員が出向いてサポートはさせていただいたつもりでございますけど、具体的な中身まで、十分入り切っていない部分も確かにあろうかなというふうに思っています。もちろん係としては、生涯学習課の係のほうもしっかりかかわりは今まで持たせていただいておりますけど、もちろんコミュニティも、ちょっと個人的な意見ではありますが、推進が大体できつつあるかな。これからは、やっぱり支援だろうと思っておりますので、その支援という考え方の中で職員が地域に、地域がどんなふうにしてあるとか、あるいは地域がどんな課題を持ってあるか。入り込んで仕事をするちゅうことではなくて、仕事を直接するということではありませんで、やっぱりその地域の実情を知るために、地域がどんなことをしているかというのを今後はやっぱり見つめていくような仕事も当然コミュニティ推進室としてはしていかなければいけないなということを感じさせていただいておりますし、若干ではございますけど、職員にもそういった意識づけをつけていきたいというふうに考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 今、立石の事務局は4人体制であります。11月までの残業は、1人当たり180時間、サービス残業となっております。代休もとれず、過重労働をしなければならない現状であります。御存じでしょうか。どうすればよいと思われますか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 立石に限らず、非常にそういった課題を抱えてあるところがよそにも幾つかあるということ存じ上げておるところでございます。

残業時間が多いから、じゃ1人ふやすとかということにもなかなか申しわけなんですけど、すぐそういった形はならないことも御了解いただければありがたいなというふうには思っ

ているんですけど、1つの手段になるかどうかわかりませんが、もう御存じのように、公民館長がコミュニティ事務局長に変わるということで、当然コミュニティ事務全体を担っていく。その中には今まで主事さん、主事補さんが主にやってあったことも事務局長も一緒にやっていただく。その中で、少しでも全体的に時間外、それこそサービス残業と言われるような時間外の業務を減らすなり、あるいはそういった体制の中で、休んでいいときはなるべく休むとか、そういった仕組みづくりをぜひそれぞれのコミュニティで考えていってくださいということも事務局長会なり、会長会の折に述べさせていただいておるところでございますので、まずは、そのあたりを工夫いただいた中で、地域の全体のやり方をそれぞれで考えていただきたいなというふうに考えておるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 立石は、今もちろんそのようにして動いております。そうしないと、動きが全くとれないからです。こういう意見もあります。コミュニティは、ボランティアの集まりであり、そこで働く事務局員もまたボランティアが当たり前と考えられますか。それとも時間外の確認をし、健康に気をつけるのは職員だけだと思いますか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 時間外の関係につきましては、職員だけでなく、公民館の関係についても非常勤特別職なり非常勤嘱託職員でございますので、同様に健康面も注意しなければいけないと思っております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） それでは、このサービス残業については、どう考えられますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） サービス残業ということですが、具体的に、数字きょう初めて聞かさせていただきました。ほかのところについても聞いておりますが、いかなせんサービス残業に甘えていたかとは思いますが、そうは私の立場からは言えませんので、まずは御理解いただいて、積極的にまちづくり活動の全般を担っていただいたと思っております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 私は、立石は職員体制は4人だと申し上げました。この4人の職員が1人180時間もの残業をしなければ、立石コミュニティが回っていかないというのは、どう考えてありますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 非常に難しい課題であることは十分存じ上げております。これは、すぐ回答が出せるようなところでもありませんので、これは、立石だけに限らず全体の課題でありますけど、1つ事務局のほうにお伝えさせていただいており

ますのは、これは大変申しわけないことでありますけど、住民の方に任せられるような仕事というのはあろうかなと思います。そういったものをなるべく住民の方にらせていただいて、その中で、やっぱり一緒に地域づくりをやっていくという考え方で進んでいただければ、可能性としては少しは減るんじゃないか。そのあたりで協力して地域づくりをやって、もちろん市の職員としての位置づけで責任というのは大事だと思ってますけど、それぞれの参加者にやっぱりそのあたりをしっかりとサポートしていただく、担っていただくことで、少しは解決できる部分もあるのではないかなということをお伝えをさせていただいておりますし、ぜひそういった取り組みというか、そういった仕組みづくりもお願いしたいというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 補足させていただきます。

立石地区については、もう議員言われますように、1万人を超えております。他の地区について10分の1か、ところもありますけど、そういった中で体制については3名体制ということでお願いしたいと考えておりますが、まず、立石地区については、今、補助金についていろいろ均等割とか、地区割が25%ずつ、それと人口割が50%あります。そういったところでいくと、ある程度平均よりも高い金額のところは300万円程度ですかね。人口割でいくならあると思います。そういったところの使い方時間外手当とか、そういったことも考えられるかと思っております。

補足説明にならないかとも思いますが、とにかく議員言われますように、地域でもできる限りのことをしてるから行政もやってくれという御意見だと思っております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 確かに50%は人口割でいただいておりますが、この50%は1万人の住民のために何かの活動をするために使うものではありませんか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） おっしゃるとおりであります。1万人のために時間外が発生したと考えております。そういったことでは使っても支障ないかと思っております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） これを事務局員に使う使わんの話をしているのではありません。立石地区の人口をもってすると、そのお金は活動するのに当然必要なお金となるのです。1万人動かす行事も2,000人動かす行事も同じ金額で、その行事が行われると思われませんか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 同じ人数でできないとは思いますが、ただ、きついかもかもしれませんが、そういったところについては、それこそ地域の活動の中でまともいただければ、カバーしていただけるかと思っております。まだ、この3名体制というのは、ただ、

固定するものではありませんし、地域の皆さんとしっかりと話さなければいけないと思っています。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 執行部の意見を聞くと、あれを思い出します。私、生涯学習課に相談に行ったことがありました。そのときは、たしか館長が倒れて2名体制となっしまい、立石の公民館はにっちもさっちもいなくなっしまい、何とかならないだろうかという相談に行ったときのことです。

生涯学習課の誰だったかは忘れましたが、こう言われました。公民館は、社会教育の場であり、それ以上のことは望まないというようなことを言われたのです。いいですか。それ以上の仕事はしなくていいというふうに聞こえます。それでは、住民のこの一生懸命さは行政はどうやってカバーしてくれるのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 地域の方が一生懸命されるということでございます。市といたしましては、この立場から言えば、コミュニティ推進室の職員が一生懸命サポートしなければいけないと考えております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 活動の内容もわからなくて、コミュニティ推進室がどんなことをされるのでしょうか。そもそもコミュニティ推進室の仕事は何なんのでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 原点に戻るわけでございますが、とにかく私たちが考えているコミュニティというのは、協働のまちづくりということであります。とにかく私が考えているところについては、担当職員が各地区のコミュニティに入り込んでいるという、ある程度入り込んでいるという認識でございました。柴山議員の御意見聞くと、何をしようかという御意見だと思っております。まずは、地域の活動を知ること、また、肌で感じること、それが職員を育てることであるし、コミュニティを育てることだと思いますし、コミュニティ推進室全体を育てることになると思っております。以上です。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） ぎょうらしい。言いたいことはやまやまなんだけど、協働のまちづくり、協働のまちづくりといつも言われるから、私は、協働のまちづくりちゃどうやってお互いが共同で仕事をやっていくのかとお尋ねしておりますが。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） やはりこの時代でございますので、地域住民の方と行政と、行政の範囲もあります。地域住民の方の範囲もあります。できる限り手を取り合って頑張っていきたいと考えております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君）　お願いしますよ。手を取り合って頑張っていくちゅうことを皆さん、よう聞いちゃってください。聞きましたね。手を取り合って頑張っていくですよ、いいですね。

次、フレアスで議会報告会のときに一番問題になったのが駐車場でした。多くの人が集まるにも余りに少ない駐車場です。キッズルームまで備えた立派な建物であり、活用は、どこまでも広げられると思いますが、このフレアスの駐車場の狭さは、なぜでしょうか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（渡邊義明君）　担当課が来てませんが、駐車場の広さはちょっとわかりません。申しわけないです。

○議長（手嶋源五君）　8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君）　何を言いたかったかと言うと、何で駐車場の広さやら聞かんでよかったとよ。中心市街地が衰退してしまって、郊外の大型店舗がにぎわうのは、もちろん商品の品ぞろえの多さ。でも、駐車場の広さじゃないですか。誰もがいつでも買い物ができる。そこに車をとめて買い物をする。そのためにも駐車場が必要です。そうではないですか。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（渡邊義明君）　そのとおりだと思っております。

○議長（手嶋源五君）　8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君）　これは、これからのコミュニティセンターにとってもとても重要なことであります。地域の中心部に位置し、多くの住民が活動できるコミュニティセンターは、駐車場や多目的な広場、憩いの場としての公園など、その時々に応じ応用できる場が必要となります。

基本計画の中にも、活動拠点の充実、既存施設の機能の拡大が上げてあります。今後、コミュニティセンターを活性化し、地域づくりの拠点とするため、どのように各地域の持つ特性を把握され、生かされようとしているのか。住民の積極的活動と行政のサポートはどうあるべきなのか。いろいろなことを含めて答弁をお願いいたします。

○議長（手嶋源五君）　総務部長。

○総務部長（渡邊義明君）　なかなかいろいろなことを含めての答弁にはならないかと思っております。地域拠点については、今、議員が言われますように、条件が駐車場を含めて、その位置も関係ありますが、いろんなことが考えられますが、今、直ちに思いつきません。申しわけありません。

○議長（手嶋源五君）　8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君）　総務部長は、言うたじゃんね。なぜ郊外が活性化するかちゅうと、人が集まって来やすい駐車場があるけち、なあ。コミュニティセンターもそうじゃなくちゃ困るでしょうが。子どもたちを集めて、何かをしようと思うときでも、駐車場が要る、

広場が要る、そういうことを申し上げたのです。

じゃ次言うていい。私が今までもろもろ言うてきたことは、何を言うてきたかといいますと、コミュニティセンターとしての新しい事務にどう、立石だけではないですよ。どう対応されようとしているのか。もう一つ、住民の積極的活動と行政のサポートはどうされるのか。ここをお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 先ほどの答弁の中でもお伝えさせていただいてるかなと思いますが、まとめまして述べさせていただきます。

まず、新しい事務サポートということでございますけど、まだ、具体的ではございませんけど、やっぱり一番私たちが懸念——懸念じゃないんですけどね、していますのは、コミュニティづくりをしようということで地域に諮らせていただいたときに、地元っていうか、特に公民館のほうから公民館活動が衰退するではないか、生涯学習活動が衰退するではないというしっかりおしかりを受けながら、今やっとコミュニティづくりができておるかなというふうに思っております。

そういったことをもちろん私たちは、先ほど柴山議員が地元の状況をいろいろおっしゃいましたが、やっぱりそういった地域の方が集うような、地域の方が学習し合い支え合うようなコミュニティのあり方は今後も大事だと思っていますので、特にそのあたりができたなら形や大きさ、いろんな内容は違ってもそれぞれ17コミュニティで何らかの形で築いて、根づいていただきたいという考え方を持たせていただいております。

そういったことで、2つあるかと思いますが、いろいろ頑張っあって、手が足らんとこは若干、職員が行ってサポートさせていただく。もう一方では、なかなかできてないところは、職員が行って、その種をまいてくる。まけんにしても何らかのアドバイスをしていく。そういった形で新しい形でのかわり方を当然持っていくべきだろうというふうに思っています。

地域の方がいろいろかわっていただいて頑張っいただいていることは十分存じ上げておりますので、そういった地域の方のかわり方の仕組みづくりについても、先ほどから述べさせていただいておりますけど、私たちの考え方なりをお伝えさせていただきながら、それぞれコミュニティ独自の考え方なり仕組みづくりなり、それぞれの地域事情もあるかと思いますが、そのあたりを上手にお互いが意見を出し合いながら、何かいい形が見つけ出せればいいかなというふうに考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） いよいよ来年度からコミュニティが出発しますので、何とかしてどこの地域もすばらしいコミュニティができ、行政と、そして住民が手を結び合って一生懸命住民も頑張れるような、そんなコミュニティづくりをしていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、健康課に質問いたします。

先日の議会報告会の中で健康寿命を伸ばすための対策についての質問がありました。健康課にお尋ねいたします。食と健康づくりについて、どんな活動をされてありますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 朝倉市は、健康増進法に基づいて平成21年度に「元気ばい朝倉」というのを策定しております。それに基づいて取り組んでいますが、平成22年の高齢化率は27.6……

○8番（柴山恭子君） 済みません。

○議長（手嶋源五君） いいですか。8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 申しわけありません。健康課の食と健康についての質問をいたしました。高齢化率は詳しくはわかりませんが、少しはわかります。

○議長（手嶋源五君） 食と健康。健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 済みません。今の朝倉市の現状というか、状況を説明して、どういったことで取り組んでいるということを説明したかったので、高齢化率から入りました。よろしいでしょうか。

○8番（柴山恭子君） 13分の中に結論まで出していただきたいと思います。私の質問する時間もとっていただきたいと思います。

○健康課長（古川淳子君） 済みません。そうしたら、はしょって、済みません、話していききたいと思います。後、死亡原因に関しても、やはり生活習慣病というのが大きな部分を占めております。全体の6割程度占めております。また、介護保険の最初の軽度の場合、どういった原因で介護保険を利用するかということと生活習慣病もですけども、後は筋骨格系とか関節系の疾患が大きな割合を占めております。

それと介護度が高くなっても、やはり生活習慣病と筋骨格系というのが大きな部分を占めていることと、もう一つは、健康増進計画を立てたときに、朝倉市の場合は運動してる人は多いんですけども、継続してしている人は少ないという状況がありました。そういったことから、運動の継続ということは介護予防にもなりますし、生活習慣病の予防にもなるし、ひいては健康寿命の延伸ということにもなるということからステップ運動に取り組んでおります。

ステップ運動は皆さん御存じないかもしれませんが、階段の昇降、上り下り、単純な運動です。でも、それをすることによって生活習慣病の予防とか、認知症の予防、そういったことが取り組みます。介護の予防にもなるということで、ステップ運動に取り組んでいるんですけども、それはやはり単純でおもしろくないというところもありますので、継続させるためにどういったことが必要かということで、ステップ運動をリーダーをする、指導していただく方を養成しております。その方たちのおかげと、後コミュニティと健康

づくり推進員のおかげで、現在全地域でステップ運動教室を取り組んでおります。そういったことで、まずは健康寿命の延伸に努めております。

それと食に関しましては、平成20年から特定健診、特定保健指導というのが始まりまして、対象者の方には生活習慣を一緒に見直す機会をつくって、健康寿命の延伸に努めているような状況があります。以上です。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） もしかしたらステップ運動については、私のほうが詳しいのかもしれない。私は、運動のことは一つも今は聞きませんでした。よろしいですか、なぜかと言うと、朝倉市は農業を基幹産業としております。この農業の農産物をもって健康づくりはできないかと考えたからです。ここのあたり課長はどう思われますか。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 朝倉市のほうには健康づくり食生活改善推進員という方がいらっしゃる。その方たちに郷土料理とか、そういったことを地域に広めていただいているわけですが、そういった中で当然地産地消といえますか、そういったことは大事、郷土料理のそもそもは地産地消から始まっていると思いますので、そういったことで指導に取り組んでいただいています。また、柿が多いというところもありまして、食進会のほうで柿を使ったプリンとかも進めているような現状があります。

後、先ほど申しました特定健診、保健指導の中で、やはり新鮮なものは栄養価も高いということから、そういった指導にも取り組んでおります。以上です。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 家庭での料理が少ないと野菜不足になりがちだそうです。いろんなところでいろんな栄養に関する指導をされていることは、とてもすばらしいことだとは思いますが、私はもっと積極的にやってほしい。例えば、特定健診の折に朝倉産の食材を使った料理を提供するとか、農業者と消費者が集まったときに、いかに朝倉の食品が健康な食品なのかをアピールする、そんなことは今まで一度も考えられたことがありませんか。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 当然新鮮な野菜、朝倉市の場合はたくさん農産物がありますので、そういった農産物を使った料理教室というのは、実際に食生活改善推進委員さんの働きによって出前講座等で行っております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） どげん言うたらわかってもらえるところが私もよっとわからんけど、私はね、大刀洗の地産地消の動きを知ってありますでしょうか、健康づくりの。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 申しわけありません、存じません。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 特定健診などの折に、何かそういうチームがあつて、皆さんが集められて、料理をされて安い値段で提供されるそうです。そして、こういう料理教室をすとかじゃなくて、そこに集まられた多くの方に対して、そういうものを提供し、そして地元の農産物のよさをアピールする、そういうことだそうですが、そういうことは健康課としてどう思われますか。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 非常に大切なことだと思います。今年度から特定健診の担当課と一緒にになりまして活動しておりますので、特定健診が終わって健康教育という形を考えております。その中で食についても考えておりますので、今提案していただいたような内容で、メニューを検討したいと思います。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） それはいつごろから実践できるものでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 年明けて、早速取り組むように計画をしております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） その折にはぜひ私も招待していただきたいと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 特定健診を受けていただけてますでしょうか。（笑声）

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 特定健診は何歳から何歳までで、誰がどのようにして受けるものでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 失礼しました。対象は国民健康保険で、40歳から74歳までの方が対象になっておりますので、健康課の行事を知っていただくためにも、ぜひ来ていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） だから申し上げました、御招待くださいと。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 大変失礼しました。ぜひおいでください。（笑声）

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） ありがとうございます。ぜひ行かさせていただきます。

私はね、健康課が健康課だけで健康を進めるのは、とても無理があると思うんです。ちょっと時間もなくなりましたが、課長は新嘗祭で御存じですかね、新嘗祭。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 済みません、存じ上げません。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 勤労感謝の日のことです。もともと日本は農耕民族で、この新嘗祭に、神様に穀物を差し上げて、そしてからでないと日本人は新米は食べなかったといえます。いいですか。それほど農業を大事にしてきた国民なのです。もちろんこの朝倉市も基幹産業は農業と言われますので、農業を大事にしたいと思っております。地産地消を大事にして、農業を何とか農業の方に頑張っていたきたいと思いますが、それはいろんな人の手も借りなければなりません。

朝倉の食材が、もしかしたら健康にすばらしくいいという付加価値がつくと売れるのではありませんか。どう思われますか。

○議長（手嶋源五君） 健康課長。

○健康課長（古川淳子君） 確かにそういうふうな取り組みができたらすばらしいことだと思います。今後そういうことも頭に置いて、活動していきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） よろしく申し上げます。とうとう3番目まで行くことができます。

次、フレアスの報告会で、地方公務員は国家公務員より給料が高いが、議会チェックはどうなっているのかと問われました。これは報告会ではありませんが、もう一遍市役所にはなぜタイムカードがないのだろう、素朴な疑問です。この2点についてどう思われているか、お願いします。

○議長（手嶋源五君） 人事課長。

○人事課長（安部裕志君） 国家公務員に対して給料が高いんじゃないかという御指摘のようでございます。通常一般的に用います数値といたしましてラスパイレス指数というのがございます。これによって比較をいたしますと、国を100といたしますと市は100.9ということでありまして、これについて若干、若干ですけれども0.9ポイントだけ高いということになります。

これについては毎年朝倉市としては、国家公務員は人事院勧告というのが出ておりまして、これを朝倉市としては資料として毎年給与改定を行っております。その給与改定については議会のほうに御承認をいただいているものでございますので、そういうことでチェックをしていただいているというふうに考えております。

それから、もう一点のタイムカードでございますが、これについては変わるべきものとして、市のほうは出勤簿というのがございます。これは毎朝課長が職員に掲示をし、職員がそれに押印するという形で、対処させていただいております。以上です。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） その印鑑を押す出勤簿なるものは、いつごろから始まったものですか。

○議長（手嶋源五君） 人事課長。

○人事課長（安部裕志君） 済みません、正確にいつからというのはちょっと持ち合わせておりませんが、相当昔からということになります、はい。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） 今の時代、何ものが前へ前へと進まないかんときに、なぜ出勤簿だけが相当昔から印鑑を押すだけで済まされているのかをお尋ねします。

○議長（手嶋源五君） 人事課長。

○人事課長（安部裕志君） 最近の傾向といたしましては、I Tを使ったI Cカードやパソコンによる出退勤の管理ができるようなシステムを各市町村、導入されているところもございます。

調査したところ、約半数ぐらいが自分たちの朝倉市みたいな紙の出勤簿で、残りがパソコンを併用しているというような形でやられておりますので、今後これらについてもちょっと調査研究をしていきたいというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員。

○8番（柴山恭子君） よろしく申し上げます。この続きはまたということで、本日はこれにて私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（手嶋源五君） 8番柴山恭子議員の質問は終わりました。

午後1時10分まで休憩いたします。

午後零時10分休憩
